

**地元の後押しを受けて、  
浜松から天下をねらう  
お笑い集団。**

しゅっせじょうず  
**出世城s**



2002年12月に結成した浜松で活動するインディーズ芸人数組で構成されたお笑い集団。浜松市地域情報センターで月一定期ライブを行っている。2011年には浜松市制100周年記念事業「100夢プロジェクト」で「第1回 浜松お笑いフェスタ『出世城』」の企画が採用され、同イベントでの東海4県のお笑い代表で競う「P-1グランプリ」に静岡県代表として出場し、優勝した。彼らの活躍は、映画関係者の目にとまり、浜松市の「2012みんなのはままつ創造プロジェクト」採択事業オムニバス漫オムビー「南十字星によろしく!」（監督・脚本・カメラ／村井宏有）に出演を果たした。P-1グランプリは年々盛り上がりを見せ、2013年10月19-20日に第3回を迎える。

# だから 大好き・はままつ。 わたしの出世物語。

願えば  
叶うのじゃ



市民にとって、暮らしの中で願いが叶うことも、ひとつの出世。  
努力する人には応えてくれる。それが出世の街・浜松。



**9年かけて果たした  
音楽の固き約束。**

池谷晃子さん 南区

主婦の池谷さんは、2003年3月、浜松国際ピアノアカデミーに参加するために訪れたウクライナ出身の青年ピアニスト、セルゲイさん(写真左)のホームステイを引き受けた。池谷さんは、自身の人生までもが表現された彼のピアノに感動。アクトシティ中ホールの音にほれ込むセルゲイさんに「私が死ぬまでに中ホールでコンサートを開いてあげる」と約束した。その約束を果たすために、もう今しかない!と決心し、浜松市文化振興財団の助成を得て、約束から9年後の2012年4月にセルゲイさんのコンサートを実現させた。「おばさんの意地と、家族と友人の協力やこの街の応援があってこそ」と池谷さんは振り返る。

**世界半周で感じた  
故郷への思いが  
新しい夢に。**

鈴木雅矩さん 中区



世界の国々を旅することを夢見ていた鈴木さん。自分で貯めた旅費と、折りたたみ自転車を持って旅をし、その先々でレポートするという企画で企業からバックアップを受けて、8カ月間の世界半周の旅を実現させた。中国からネパール、インド、そしてシルクロードをたどり中央アジアからヨーロッパへ。地中海沿岸のアフリカへ行き、最後はトルコから帰国したおよそ20カ国の旅。そこで出会ったのは、国、地域の違い、人間の多様性だった。帰国後は、世界半周の旅の前に経験した日本一周自転車旅からも感じていた故郷への思いを強くし、浜松市市民協働センターで浜松のために奔走する日々。みんなの応援のもと、自分のために旅に出た鈴木さん。今は人のため、地域のため、浜松に文化を創りたいという、新たな夢に向かっていく。



**地元企業創立の大学が、若き起業家の夢をバックアップ。**

林田亮さん 中区

林田さんは、地元の大学に在学中「日本宇宙少年団浜松分団」に指導員として所属。子どもたちと接する中で、科学実験やものづくり体験が、学校で得た知識を高め、深く考える能力を養うことを実感し、新しい教育システムの構築を夢見る。社会人になって「科学の体験塾の起業」として具体化し、光産業創成大学院大学(西区呉松町)の門を叩いた。本学は浜松ホトニクスが中心となって設立。最先端の経営学や光技術が学べる。林田さんの明確な起業プランとビジョンが認められ入学を果たし、2013年2月、小学生を対象とした科学塾「サイエンスイズ(株)(中区布橋二丁目)」を開くこととなった。大学からは、塾での実験に関する専門指導を受けたり、最先端研究に触れる機会を提供してもらったりと、バックアップを受けながら塾を運営している。

**市民応援の映画、東京国際映画祭に招待。**

榎本雅之さん 南区



一昨年からここ浜松で製作されていた、吹奏楽を通してこどもの成長を描く映画「楽隊のうさぎ」。楽隊のうさぎを映画にする会(代表:榎本さん)が中心となって「全国の映画ファンに通用する質の高い映画を」を合言葉にこの夏に完成した。この映画の制作プロデューサー越川道夫さんも浜松出身。ロケ地はすべて浜松であると同時に、出演者はほとんどが浜松の中学生たち。また、楽器、宿泊場所、炊き出しなど撮影に必要なものの多くは市民や企業の支援で賄われた。そして完成した作品は、2013年東京国際映画祭の「日本映画スプラッシュ」部門に正式招待された。関係者の思いが、この浜松の地の応援によって結実した。